描かれた文明開化
「明治錦絵と砂目石版画」展

会期：2017年10月20日(金) ～ 12月24日(日)

会場：< GAS MUSEUM がす資料館>ガス灯館2階「ギャラリー」

ごあいさつ

GAS MUSEUM がす資料館では、2017年度第三回企画展として、2017年１０月２０日(金)から１２月２４日(日)までの期間、『描かれた文明開化「明治錦絵と砂目石版画」』展を開催します。

＜GAS MUSEUM がす資料館＞は、1967年4月29日に小平の地で開館して以来、2017年4月で開館五十年を迎え、多くの方にご来館頂くことが出来ました。

当館収蔵の美術資料は、「東京瓦斯七十年史」（発行：1956年）編纂作業のなか、明治時代を中心とした当時の風俗を知る映像資料として収集されたものが母体となっており、当館開館以後も錦絵を中心に資料を収集してきました。なかでも文明開化期を描いた錦絵では、ガス燈や鉄道、洋風建築や洋装で着飾った人々などが描かれ、今の私たちに当時の様子を伝えてくれます。

今回は開館五十周年第三回企画展として、開化風俗を描いた木版画や、微妙な陰影による写実的な表現を可能とする砂目石版画の作品より、明治の風俗を知る資料として収集してきたコレクションの一角を紹介します。

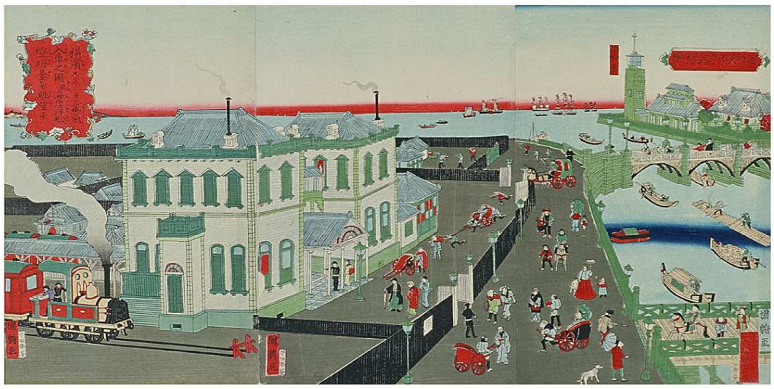
GAS MUSEUM がす資料館

■展示作品一覧

【展示解説】　学芸員　高橋　豊

「文明開化の窓口 横浜・東京」

現在、横浜の関内と呼ばれる地域は、海を埋め立てた地域を横浜開港に合わせて、外国人居留地と日本人居留地が東西の地区に分けられて整備されました。明治以降外国との貿易の拠点として発展し、作品に描かれるフランスやイギリスをはじめとした公館などが設置されるほか、明治7年（1874）に、横浜の貿易商たちの集会場として設置された町会所（まちかいしょ）は、時計を備えた高塔があるところから「時計塔」の愛称で呼ばれましたが、明治39年（1906）に焼失してしまいます。



1)横浜商館並ニ辨天橋図　横浜ステーション蒸気入車之図 並ニ海岸洋船燈明台を眺望す
歌川国鶴　　年代不明

2)横浜繁栄本町通　時計台神奈川県全図
歌川国鶴　　年代不明

3)横浜本町海岸仏郎斯役館之全図
歌川広重（二代）　　明治２年（1869）

4)東京名所之内　日本橋真景
小林幾英　　明治19年（1886）

日本橋を北側より眺めた風景が描かれています。川向こうには電信局や郵便局の建物が見え、鉄道馬車が行き交う木製の日本橋のたもとには、黒塗りの郵便ポストが見えます。

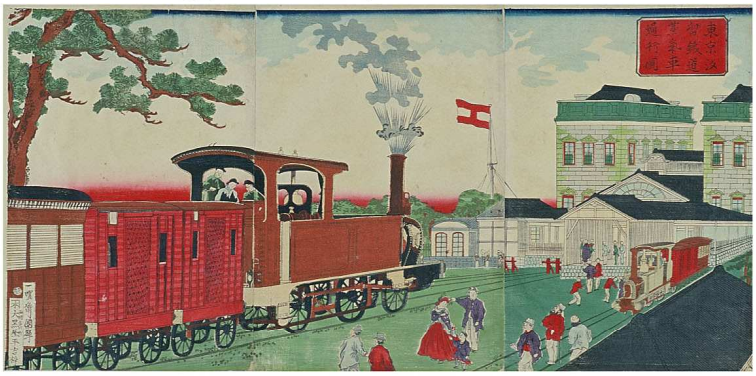
5)荒布橋従江戸橋之真景
歌川広重（三代）　　明治10年（1877）

かつての西堀留川が日本橋川に注ぐ場所にかかっていた橋が、荒布橋（あらめばし）です。

作品に描かれているように、この石造りの橋のたもとからは、西には江戸橋、東には鎧橋の姿が見え、川向こうには兜町の第一国立銀行や江戸橋のたもとに建つ郵便局の建物が望めるなど、開化を象徴する風景を見ることが出来ました。

「新しい陸運 蒸気車」

東京横浜間で鉄道が開業したのは、明治5年(1872)10月14日(旧暦9月13日)のことになります。
それ以前に品川駅までは、同年6月12日(旧暦5月7日)に仮開業して営業を開始していました。
鉄道は建設中より明治錦絵の題材として数多く取り上げられ、【8】の作品では、現在の品川駅付近が描かれていますが、鉄道開業の前年に制作された作品であり、線路が一本だけであったり、蒸気機関車の形状も実際の車両とは異なるなど、鉄道という開化風物をイメージで描いています。



6)東京汐留鉄道蒸気車通行図
歌川国輝(二代)　　明治 5 年(1872)

7)東京名所之内　新橋ステンション
歌川広重(三代)　　明治12年(1879)

8)東京蒸気車之図
歌川芳虎　　明治 4 年(1871)

9)東京名所　品川汽車
歌川国利　　明治17年(1884)

10)東京品川鉄道蒸気車発車之図
歌川広重(三代)　　明治 6 年(1873)

品川付近を走る蒸気機関車の姿を描いています。
鉄道路線は高台に架かる橋下を走っていますが、この橋は「八ッ山橋」と呼ばれ、鉄道の開業に合わせて東海道と線路を交差させるためにかけられました。
現在の橋は、昭和60年(1985)に改架された四代目の橋になります。

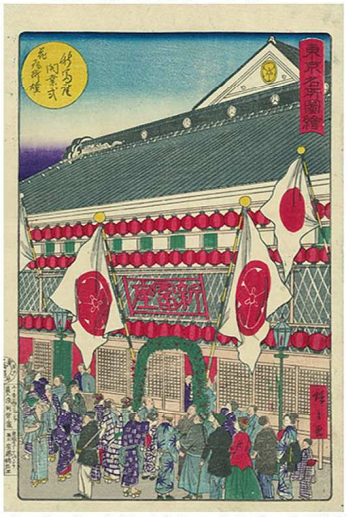
11)古今東京名所　上野鉄道蒸気車
歌川広重(三代)　　明治17年(1884)

「開化の夜景を照らすガス燈」

明治5年(1872)10月31日(旧暦9月29日)に横浜の馬車道通りに灯ったガス燈は、赤い光を放つ裸火の明かりでしたが、人々の夜の行動範囲を拡げました。
また横浜外国人居留地に居住する人々にとっては、母国と同じような暮らしを叶える明かりでした。
2年後の明治7年(1874)12月18日には、東京の京橋までの銀座煉瓦街沿いに85基のガス燈が灯され、夜の東京の街を変えました。
このほかガスの炎は、式典や催し物会場などで「花瓦斯(はながす)」(ガスイルミネーション)として掲げられ、夜のイベントで灯された姿は明治錦絵にも描かれました。

12)東京名所　京橋銀座通里煉化石瓦斯燈景ノ図
歌川広重(三代)　　明治 7 年(1874)

13)横浜郵便局開業之図
歌川広重(三代)　　明治 8 年(1875)



14)東京名所図絵　新富座開業式花瓦斯燈
歌川広重(三代)　　明治11年(1878)

15)横浜名勝競　伊勢山下瓦斯本局雪中の一覧
歌川国松　　明治13年(1880)

16)東京名勝図会　金杉橋より芝浦の鉄道
歌川広重(三代)　　年代不明

横浜にガス事業を立ち上げるため雇われた、フランス人アンリ・プレグランが東京にガス事業を起こすため建設した会社が描かれています。
明治7年(1874)に銀座煉瓦街沿いの街灯として85基の点灯から始まり、民間会社となった明治18年(1885)には400基のガス燈が東京の街を照らしていました。

17)東京名所図会　銀座通り煉瓦造
歌川広重(三代)　　明治12年(1879)

「開化の街並みと行き交う人々」

木骨石造りの新橋駅から京橋まで銀座煉瓦街をはじめ、開化東京の街には新しい名所なるさまざまな建造物が建てられました。
外国人が設計に関わった銀座煉瓦街や新橋駅などがあるほか、日本人が建設に深く関わった築地ホテルや三井ハウスなど、知識や技術を吸収した日本人による建物も登場しました。

18)第一大区従京橋新橋迄
煉瓦石造商家蕃昌貴賤薮澤盛景
歌川国輝(二代)　　明治 6 年(1873)

19)大日本帝国　国会仮議事堂之図
井上安治　　明治21年(1888)

20)東京吾妻橋新築落成之図
歌川国政(四代)　　明治20年(1887)

21)東京開化名所　鍛冶橋内東京裁判所之真図
歌川広重(三代)　　明治 9 年(1876)

22)東京名所　する賀町三ツ井組ハウスの図
歌川広重(三代)　　明治 6 年(1873)

23)東京築地ホテル館表掛之図
歌川芳虎　　明治 3 年(1870)

24)東京名勝之内　常盤紙幣局新建出来之図
歌川広重(三代)　　明治10年(1877)

作品に描かれた煉瓦造りの建物は、明治9年(1876)に常磐橋の西に建てられた紙幣局の印刷工場です。建物正面には菊の御紋を掲げ、その上には3m近くもある鳳凰の石像が備え付けられていました。
建物はこの像に由来し、「詩経」の一節より「朝陽閣(ちょうようかく)」と呼ばれました。
建物は関東大震災で倒壊しますが、鳳凰像はその前に取り外され、現在滝野川にある印刷局の工場に保管されています。

「開化東京に登場した新しい乗りものたち」

開化東京の街では、鉄道のほか、人力車や蒸気船、乗合馬車、気球、そして自転車が行き交う姿が見られ、開化風物の一つとして明治錦絵の主題に取り上げられるほか、開化を彩るものとして、さまざまな作品に描かれました。

25)東都八景之内
NIHON HASHI NO YUOOSEOO
歌川芳虎　　明治 4 年(1871)

26)東京両国通運会社川蒸気往復盛栄真景之図
歌川重清　　年代不明

27)東京府下名所尽　京橋従煉瓦石之図
歌川広重(三代)　　明治 7 年(1874)

28)志ん版十二階図
みの忠　　年代不明

29)大日本東京吾妻橋真図
大倉孫兵衛　　明治23年(1890)

「明治の洋装の姿」

いずれも洋装で着飾った人々が描かれています。
警察官や郵便配達夫などの制服から男性の洋装は広まってゆきましたが、女性の洋装は上流階級から広がり、宮中での洋装の採用は明治20年(1887)以降のことになります。
作品のように外国での洋装の女性や、洋装で着飾った男女の演奏会風景などは、作品が描かれた当時は紙面などを通じてその姿を知り、一般の人々が着飾るにはまだ時間が必要でした。

30)古今名婦鏡　小染
安達吟光　　年代不明

31)欧洲管弦楽合奏之図
楊洲周延　　明治22年(1889)

「明治の砂目石版画」

１８世紀末にドイツで考案された石版画は、名前の通り石灰岩の上に化学処理を用いて、水をはじく部分と水がのる部分に版を描きます。水でしめらせた版面に油性インクを乗せると、水をはじく部分だけにインクが残ります。
この上に紙を乗せ、版面上に圧力をかけて印刷します。版の数だけくり返し摺り作品を制作します。
女性たちの姿を砂目石版画で表現していますが、砂目石版画は石版石を、金剛砂(ざくろ石)で研磨して砂目を立て、制作した作品になります。

32)下谷芸妓〆子やっ古

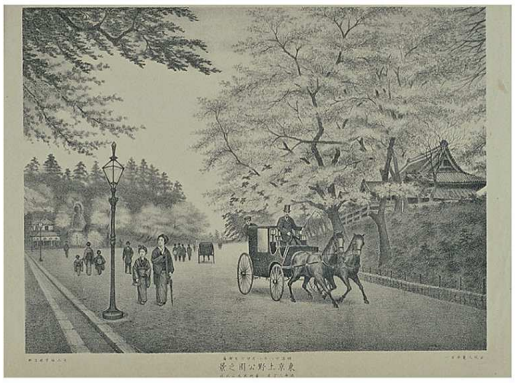
有山定次郎　　明治24年(1891)

33)芸妓小幾

金子豊吉　　年代不明

「変わることのない景勝地」

いずれも江戸時代から変わらず、明治東京の景勝地として人々の行楽の場所でした。上野は桜や雪景色が、愛宕山は観月や眺望が楽しめましたが、現在はその面影はだいぶ薄れてしまっています。



34)東京上野公園之景

亀井至一　　明治18年(1885)

35)東都名勝図絵　愛宕山

薮崎芳次郎　　明治26年(1893)

「石版画で描かれた東京の新名所」

両作品とも東京の新名所が取り上げられています。帝国ホテルは現在の千代田区内幸町に、明治23年(1890)に建てられた木骨煉瓦造りの建物になります。一方キリンビールの看板の立つ新橋駅夜景の作品には、「月光」「提灯(ろうそくの光)」「ランプ」「ガス燈」「電燈」と、明治の夜の街を照らしたさまざまな明かりが一堂に描かれています。

36)東京大日本名勝之内
山下御門内帝国ホテル真景

勝山英三郎　　明治24年(1891)

37)東京名所之内　新橋停車場之夜景

葛西虎次郎　　明治35年(1902)

おもな参考文献

東京瓦斯七十年史　東京ガス（株）1956 年
東京の橋　生きている江戸の歴史
石川悌二　新人物往来社 1977 年
私の蒸気機関車史 上　川上幸義　（株）交友社 1978 年
改訂版 版画の技法と表現　町田市立国際版画美術館 1994 年

GAS MUSEUM がす資料館　企画展ご案内郵送申込について

ご来館ありがとうございます。　これから3ヶ月ごとに開催されます、「GAS MUSEUMがす資料館 企画展」のご案内はがきの郵送をご希望の方は、 官製ハガキに　①氏名　②連絡先住所　③年齢　④電話番号　⑤感想・意見　⑥今後希望する企画展、をご記入の上、 下記の住所までお申し込みください。
次回より約 1年間、毎企画展ごとにご案内ハガキを無料で郵送します。
（ ハガキ持参で来館された方は、そのまま継続して登録されます）

〒187-0001東京都小平市大沼町 4-31-25　GAS MUSEUMがす資料館「ご案内ハガキ」係
TEL(042)342-1715 FAX(042)342-8057

《 当館のお客様情報〈 個人情報〉は、当館イベント運営に必要な業務を含め、　当館に関連する企画、 及びサービスのご案内のために使用いたします。》